

## 平成 29 年 4 月の解説（府県天気予報）

### 【4 月の天候状況】

上旬は、旬の前半は上空の寒気の影響により東日本や西日本を中心に雷雨となった所がありました。旬の後半は、前線の影響により東日本や西日本では曇りや雨の日が多くなりました。北日本や沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響を受けにくかったため、晴れる日が多くなりました。気温は、旬のはじめは北から寒気が流れ込んだため全国的に平年を下回りましたが、旬の中頃からは南から暖かい空気が流れ込んだため平年よりも高くなりました。

中旬は、本州付近を低気圧と高気圧が交互に通過しました。17 日から 19 日には、発達した低気圧が日本海から北日本へ進んだため全国的に天気が崩れ、暴風や大雨となり、各地で土砂災害等が発生しました。低気圧の通過後は一時的に寒気の影響を受け、北日本では北海道を中心に平地でも積雪となった所がありました。沖縄・奄美では前線や気圧の谷、湿った気流の影響で旬間日照時間が少なくなりました。旬の中頃は南からの暖かい空気が流れ込んで気温が高くなり、18 日には群馬県上里見で最高気温 30.6 を観測するなど、夏日や真夏日となった所がありました。

下旬は周期的に天気が変わりましたが、旬の前半は高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。旬の後半は低気圧や前線の影響により先島諸島で大雨となり、特に 26 日は沖縄県石垣島で日降水量が 250mm を超える大雨となりました。28 日から 29 日は、上空の寒気の影響により雷雨となった所がありました。東日本と沖縄・奄美では、寒気が流れ込みやすかったため、気温が平年よりも低くなりました。

月平均気温は、北・西日本で高く、東日本や沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、西日本で多く、北・東日本や沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、北・東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美で多く、北・東日本日本海側では平年並でした。

### 【4 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値<sup>(注)</sup>より 1 ポイント高い 86% で、明後日予報は例年値より 1 ポイント高い 83% でした。各地方の適中率は、明日予報についてはほとんどの地方で例年と同程度でしたが、九州北部地方では例年値よりも 6 ポイント高く、北陸地方では 5 ポイント低くなりました。明後日予報も例年と同程度の地方がほとんどでしたが、九州北部地方では 12 ポイント、四国地方では 7 ポイント、それぞれ例年値よりも高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4 小さい 1.5 で、全ての地方で例年値より小さく、特に北日本・東日本の各地方と中国地方では例年値よりも 0.5~0.7 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.3 となり、全ての地方で例年値より小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁 H P (予報精度検証) 内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【6 月の天気予報の利用にあたって】

例年、6 月は、南西諸島付近に停滞していた梅雨前線が次第に北上して、九州や四国、本州付近に停滞することが多くなります。平年では上旬から中旬頃にかけて、西日本、東日本および東北地方で梅雨入りとなりますが、梅雨入りの時期や梅雨の期間、天候経過などは年によって違いがあります。

梅雨の時期は他の季節に比べ、大雨が発生しやすく、山崩れやがけ崩れ等の土砂災害、河川の増水や氾濫などの災害をもたらすことがあります。雨の天気予報が出ているときには、最新の気象情報や、大雨・洪水の警報・注意報などに留意してください。